

活動を中心とした地域密着型の営業展開を図っています。また店舗へのお客さまの来店も1日平均60～70件あります。お客様の多くは高齢者ということもあり、現金取引を希望される方が非常に多く、J-Debitの導入前は現金での決済が60%を占めていました。

導入当初は各金融機関の利用限度額の違いやJ-Debit端末の操作など戸惑う場面もありましたが、支店オリジナルの操作マニュアルや主要銀行の利用限度額を表示した資料をクリアファイルに入れ、お客様への説明時にはそれを見ながら正確にお客様にご案内を行うことを徹底しました。その結果、今では入金時におけるJ-Debitでの決済利用件数は取引全体の約15%を占め、一度J-Debitサービスをご利用になったお客様の殆どがリピーターとなって、安定した利用件数を維持しています。



■店舗窓口の声

店舗窓口での接客担当の人はJ-Debitサービスのメリットとして“即時性”“利便性”“安全性”と語ってくれました。逗子支店は駅前に位置し、周りには都市銀行や地元の金融機関が密集しています。しかし、振込みのために銀行窓口やATMに並ぶ煩わしさ、また現金を引き出して逗子支店まで持ってくるなどの手間をお客様に求めなくとも、「キャッシュカードをお持ちになっていただければ結構です」という案内だけで、前述のメリットをご提供できることがJ-Debitの最大の魅力です。お客様からも、「そんなことできるの?」、「便利になったね」などのお声をいただくこともあります。着実にJ-Debitサービスが浸透していく手ごたえが感じられます。

しかしながら、J-Debitの利用を増やすには課題もあります。本社、逗子支店とも同様に、金融機関で利用限度額が異なることについて指摘がありました。株式売買などの資産運用においては一回の取扱金額が高額になるケースがあり、金融機関によっては定められた限度額をはるかに超える取扱が発生する場面もあります。事前に限度額の引上げを行っているお客様は少なく、お客様からも「なぜ?残高はあるのに…」というご質問も多々あります。こうした声に対しては、今後の各金融機関での対応が期待されます。

また、J-Debitサービス利用における通信インフラにも問題ありとの声もありました。同社では、J-Debit端末として携帯端末(Out Door)型を採用し、店舗内でも、お客様宅においてもJ-Debitサービスをご提供できるようにしていますが、電波状況によっては通信切断などによりサービスをご提供できないこともあります。社内的にJ-Debit利用環境が整ったいま、今後の利用促進に拍車をかけるためにも、社会的な環境整備は不可欠です。また、他業種、他業態においてもJ-Debitの利用頻度を上げる努力をいただければ、J-Debit自体の認知度が高まり、利用促進の追い風となるという意見もありました。



■証券会社におけるJ-Debitの発展性

証券取引はJ-Debitが常に隣り合わせで、比較される“クレジット決済”が無い市場です。自己の資産(現金)を企業投資へ、そして、その利益の還元を受けるという取引形態、その中においてJ-Debitが担う役割は計り知れない可能性があります。現金が往き来する取引の中、お客様の安全性の確保、利便性のご提供、そしてサービス提供側の業務効率向上への追及などJ-Debitが貢献できるさまざまなシーンが思い浮かびます。

セキュリティに関しても、投資商品の売買という特性上、キャッシュカードの不正利用も考えづらく、より安心してご利用いただけるのではないのでしょうか。

みずほインベスターズ証券におけるJ-Debit利用事例が起爆剤となり、今後とも業界全体をリードしていただくことを確信した取材でした。



企業概要

社 名：みずほインベスターズ証券株式会社
本店所在地：東京都中央区日本橋茅場町 1-13-16
逗子支店：神奈川県逗子市逗子 5-2-52
URL：<http://www.mizuho-isec.co.jp/>

設 立：1922年5月
資本金：802億8,800万円
店舗数：59拠点、プラネットブース41ヶ所
従業員数：1,595名

[J-Debit質問箱]



ジェイデビットを利用できる時間帯は全国で統一されていますか?



平日は午前8時から午後9時まで、土・日曜、祝祭日は午前9時から午後7時までコアタイムとして、協議会に加入しているすべての金融機関のキャッシュカードがご利用になれます(但し、お正月の三が日とゴールデンウィークの5月3日から5日までを除く)。上記以外の時間帯は金融機関によって利用時間帯が異なりますので、詳細は協議会ホームページでご確認ください。